

2019. 6. 1

歴史民俗資料館だより No.129

長崎市歴史民俗資料館

〒852-8117 長崎市平野町7番8号

TEL (095) 847-9245 (FAX 兼用)

<http://www.city.nagasaki.lg.jp/kanko/820000/828000/p009251.html>

戦時中のくらし展

会期 6月13日(木)～8月18日(日)

展示品 貨幣・紙幣・軍事郵便葉書・手製の教科書・大東亜戦争世界要図・旭日旗寄せ書き・防空頭巾・もんぺなど 約230点

昭和12(1937)年の日中戦争勃発以降、第2次世界大戦へと向かい、日本は、戦時体制へと突入していきました。

そして長崎は、昭和20(1945)年8月9日に原子爆弾が投下され、約24万人の市民の半数以上が死傷するという悲惨な被害を受けました。

その当時、人々は様々な統制を強いられ、「ほしがりません勝つまでは」と質素、節約のくらしをしなければなりません。日常生活に必要な物も手に入りやすく代用品や代用食がさかんにつくられました。

現在の豊かな生活と対比し、平和の尊さを考える機会として、このたび当館では「戦時中のくらし展」を開催いたします。

今回の展示に際しまして、貴重な資料をご寄贈、ご提供いただきました多くの市民の皆様と関係者各位に深く御礼申し上げます。



手製の教科書

昭和20(1945)年に現物がなく、女学校の学生(13歳から14歳)が教師となり、小学6年生の教科書の挿絵を除き、1冊163頁全てを筆写したものです。



戦時郵便貯金切手

金貳圓 昭和18年

戦時貯蓄債券

金拾五圓 昭和19年

多額の戦費調達のために、政府は各種国債を発行しました。



国防・防護団の記章

昭和11(1936)年、戦時または事変に際し、警備・防空の必要に備えるため、市内各種団体による市防護団がつけられました。翌年、国防婦人会長崎支部ができました。



紙製投砂弾
砂約一升を入れ、本投砂弾を投げれば、理想的に破れ、砂が飛び出しますから、とつさの場合に消火の目的を達します。



雑囊・水筒
旧陸軍兵士の三十キログラム以上の装備の内の一部です。



紙芝居

オコメ 昭和16年

少女を通して、勤労の尊さ、お米のありがたさを知らせようとしています。



ほうろく

金属製のほうろくは、戦時中に供出されて、このような陶器製に代わりました。蓋の上に「戦勝」の文字が入れています。



旭日旗寄せ書き

出征兵士のために、友人、関係者から武運長久を祈願して、寄せ書きされたものです。



軍用手票

戦地、占領地で兵士が通貨の代用として使用した手形です。昭和15(1940)年の10円札と昭和19(1944)年の100円札です。



演芸写真新報
太平洋戦争が始まる昭和十六(一九四一)年十二月まで、月刊の娯楽雑誌として愛読されました。



防空頭巾ともんぺ

戦時中、空襲から頭部を保護するための防空頭巾と動きやすいもんぺは欠かせないものとなりました。



エマル消火弾・陶製防砂袋
昭和19年8月11日に長崎は米軍のB29爆撃機で初めて空襲を受けました。そしてこれらの消火器具は各家庭に常備されました。